

岸信介・佐藤栄作両宰相略年譜

明治	岸 信 介	佐 藤 栄 作	国内外重要事項
大正	<ul style="list-style-type: none"> 二十九年(一八九六) 山口県山口町(現山口市)で父佐藤秀助・母モツの次男として生まれる(十一月十二日) 三十六年(一九〇三) 田布施村国木尋常小学校に入学(四月) 四十年(一九〇七) 田布施村西田布施尋常高等小学校に入学(四月) 四十一年(一九〇八) 岡山県内山下尋常小学校六年で編入(尋常八年制度の第一回生に当た) 四十一年(一九〇九) 岡山県立岡山中学校に入学(現朝日高校)(四月) 四十三年(一九一〇) 山口県立山口中学校一年に転入学(現山口高校)(四月) 一年(一九一三) 父の生家を継ぎ岸姓を名乗る 二年(一九一四) 第一高等学校に入学(現東京大学) 六年(一九一七) 東京帝国大学法学部独法科に入学 八年(一九一九) 高等試験行政科試験に合格(十月) 九年(一九二〇) 東京帝国大学を卒業(九月) 農商務省に入省(九月) 	<ul style="list-style-type: none"> 三十四年(一九〇一) 山口県田布施村(田布施町)で父佐藤秀助・母モツの三男として生まれる(三月二十七日) 四十年(一九〇七) 田布施村国木尋常小学校に入学(四月) 一年(一九一三) 山口県立山口中学校に入学(現山口高校)(四月) 七年(一九一八) 第五高等学校に入学(現熊本大学)(九月) 十年(一九二一) 東京帝国大学法学部独法科に入学(四月) 十一年(一九二二) 高等試験行政科試験に合格(十月) 十二年(一九二四) 東京帝国大学を卒業(四月) 鉄道省門司駅に勤務(五月) 十五年(一九二六) 二日市駅長となる(十一月) 	<ul style="list-style-type: none"> 二十七年(一九〇四) 日露開戦(七月) 三十八年(一九〇五) ポーツマス講話条約調印(九月) 四十一年(一九〇九) 伊藤博文、ハルビン駅頭で射殺される(十月) 四十三年(一九一〇) 日韓併合に関する基本条約調印(八月) 三年(一九一四) 第一次世界大戦始まる(七月) 六年(一九一七) シア十月革命(十月) 七年(一九一八) シベリア出兵を決定(八月) 八年(一九一九) ヘルサイユ条約調印(六月) 十年(一九二一) 原首相暗殺さる(十一月) 十一年(一九二二) 関東大震災(九月) 十四年(一九二五) 普通選挙法施行
昭和	<ul style="list-style-type: none"> 七年(一九三二) 工務局工政課長となる(二月) 八年(一九三三) 大臣官房文書課長となる(十二月) 十一年(一九三六) 工務局長兼産業合理局事務官となる(四月) 満州国実業部総務司長に転出(十月) 十一年(一九三七) 産業部次長となる(七月) 十四年(一九三九) 総務庁次長となる(二月) 満州から帰国 商工次官となる(十月) 十六年(一九四一) 東条内閣商工大臣となる(十月) 十七年(一九四二) 衆議院議員に初当選(四月) 十八年(一九四三) 国務大臣兼商工次官となる(十月) 国務大臣兼需次官となる(十一月) 	<ul style="list-style-type: none"> 六年(一九三二) 門司鉄道局鳥栖運輸事務所長となる(四月) 八年(一九三三) 門司鉄道局庶務係長となる(五月) 十二年(一九二八) 鉄道書記官・監督局鉄道課長となる(八月) 十五年(一九四〇) 鉄道省監督局総務課長となる(八月) 十六年(一九四一) 鉄道省監督局長となる(十一月) 十八年(一九四三) 運輸通信省自動車局長となる(十一月) 十九年(一九四四) 大阪鉄道局長となる(四月) 	<ul style="list-style-type: none"> 二年(一九一七) 金融恐慌起る(三月) 三年(一九一八) 張作霖爆殺事件(六月) 六年(一九三二) 満州事変起る(九月) 七年(一九三三) 五・一五事件(五月) 八年(一九三三) 日本、国際連盟を脱退(三月) 十一年(一九二七) 蘆溝橋事件(七月) 日独伊防共協定調印(十一月) 十二年(一九二八) 国家総動員法公布(四月) 十四年(一九三九) ノモンハン事件(五月) 十五年(一九四〇) 日独伊三国同盟成立(九月) 大政翼賛会発足(十月) 十六年(一九四一) 太平洋戦争始まる(十二月) 十八年(一九四三) 大東亜会議開催(十一月)

岸 信 介

佐 藤 榮 作

国内外重要事項

- 二十八一年(一九五二)
 - 自由党に入党(二月)
 - 衆議院議員三選(四月)
- 二十九年(一九五四)
 - 日本民主党幹事長となる(十一月)
 - 三十年(一九五五)
 - 衆議院議員当選(二月)
 - 自由民主党幹事長となる(十一月)
 - 三十一年(一九五六)
 - 石橋内閣外務大臣となる(十二月)
 - 三十二年(一九五七)
 - 石橋総理病気のため首相臨時代理となる(二月)
 - 第一次岸内閣成立(二月)
 - 三十二年(一九五八)
 - 衆議院議員当選(五月)
 - 第一次岸内閣成立(八月)
 - 三十五年(一九六〇)
 - 新安保条約批准書交換(六月)
 - 岸内閣総辞職、自民党顧問就任(七月)
 - 衆議院議員当選(十一月)
 - 三十八年(一九六三)
 - 衆議院議員当選(十一月)
 - 四十一年(一九六六)
 - 衆議院議員当選(一月)
 - 勲一等旭日桐花大綬章拝賞(四月)
 - 四十四年(一九六九)
 - 衆議院議員当選(十一月)
 - 五十七年(一九八二)
 - 衆議院議員当選(十一月)
 - 五十四年(一九七九)
 - 国連平和賞受賞(八月)
 - 政界現役引退(十一月)
 - 五十七年(一九八二)
 - 自民党最高顧問となる(二月)
 - 五十八年(一九八三)
 - 田布施町名誉町民推戴(九月)
 - 六十二年(一九八七)
 - 逝去、享年九十歳(八月七日)
 - 正一位大勲位菊花大綬章拝賞(八月七日)

- 二十一年(一九四三)
 - 運輸省鉄道総局長官となる(二月)
 - 二十二年(一九四四)
 - 運輸次官となる(二月)
 - 二十三年(一九四八)
 - 第一次吉田内閣官房長官となる(十月)
 - 二十四年(一九四九)
 - 衆議院議員に初当選(一月)
 - 二十五年(一九五〇)
 - 自由党幹事長となる(四月)
 - 二十六年(一九五一)
 - 郵政大臣兼電気通信大臣となる(七月)
 - 二十七年(一九五二)
 - 衆議院議員当選、建設大臣となる(十月)
 - 二十八年(一九五三)
 - 自由党幹事長となる(二月)
 - 衆議院議員当選(四月)
 - 三十年(一九五五)
 - 衆議院議員当選(二月)
 - 三十二年(一九五八)
 - 衆議院議員当選(五月)
 - 岸内閣大蔵大臣となる(六月)
 - 三十五年(一九六〇)
 - 衆議院議員当選(十一月)
 - 三十六年(一九六一)
 - 池田内閣通産大臣となる(七月)
 - 三十八年(一九六三)
 - 池田内閣国務大臣(北海道開発庁長官、科学技術庁長官兼任)となる(七月)
 - 三十九年(一九六四)
 - 第一次佐藤内閣成立(十一月)
 - 四十一年(一九六七)
 - 第一次佐藤内閣成立(二月)
 - 四十四年(一九六九)
 - 衆議院議員当選(十一月)
 - 四十五年(一九七〇)
 - 第三次佐藤内閣成立(二月)
 - 四十六年(一九七一)
 - 沖繩返還協定調印(八月)
 - 四十七年(一九七二)
 - 佐藤内閣総辞職(七月)
 - 大勲位菊花大綬章拝賞(十一月)
 - 四十九年(一九七四)
 - ノール平和賞受賞(十月)
 - 五十年(一九七五)
 - 逝去、享年七十四歳(六月三日)
 - 従一位大勲位菊花章頸飾拝賞(八月二日)
 - 田布施町名誉町民推戴(八月二日)

- 二十年(一九四五)
 - ポツダム宣言受諾終戦(八月)
 - 二十一年(一九四六)
 - 新憲法公布(十一月)
 - 二十五年(一九五〇)
 - 朝鮮動乱始まる(六月)
 - 二十六年(一九五一)
 - サンフランシスコ平和条約
 - 日米安保条約調印(九月)
 - 二十七年(一九五二)
 - 平和・安保条約発効(四月)
 - 三十一年(一九五六)
 - 日ソ国交回復共同宣言(十月)
 - 三十五年(一九六〇)
 - 日米新安保条約調印(一月)
 - 日米新安保条約発効(六月)
 - 三十九年(一九六四)
 - 東海道新幹線開業(十月)
 - 第十八回オリンピック東京大会(十月)
 - 四十三年(一九六八)
 - 小笠原諸島日本に復帰(六月)
 - 核兵器拡散防止条約調印(七月)
 - 四十四年(一九六九)
 - アポロ十一号月面着陸(七月)
 - 四十五年(一九七〇)
 - 日本万国博覧会開幕(三月)
 - 四十六年(一九七一)
 - 沖繩返還協定調印(八月)
 - 四十七年(一九七二)
 - 日中国交正常化共同声明に署名(九月)
 - 五十年(一九七五)
 - 山陽新幹線開業(三月)